

社会保障解体を許すな 医療従事者、市民3700人で



「いのちまもる」のプラカードを掲げ
シュプレヒコール

10月11日、日比谷野外音楽堂で「憲法・いのち・社会保障まもる10・11国民集会」が行なわれ、全国から3700人（東京土建は1035人）が参加しました。

集会実行委員会を代表し日本医師連の森田委員長は「社会保障の解体や戦争する国づくりを許さない声をあげよう」とあいさつ。続いて、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動の菱山南帆子さんが沖繩知事選での玉城デニーさん勝利を喜び合いたいとしながら「憲法も社会保障も壊す安倍内閣を倒しましょう」とメッセージを寄せました。

参加した認知症患者家族の会、医師、介護士、看護士などがそれぞれの立場から現状の問題について発言しました。また、政党からは立憲民主党、共産党の国会議員が登壇し、連帯のあいさつをしました。

参加した村山大和支部の高橋久美子さんは「働き方改革の中で、医療の現場は大変なのがよくなりました。政権を変えて高齢者の生活しやすい社会にしたいです」と話してくれました。

現行水準の維持を 都福祉保健局と交渉



要請する佐藤副委員長
(国保組合理事長)

【本部・末浪明子記】10月10日、67人の参加で都福祉保健局交渉へ臨み、要請書と全都議126人中112人分の都議賛同署名を東京都へ手渡した後、木村都連社保対部長が要請趣旨を説明しました。要請趣旨は、①都費補助金の現行水準確保、②生活習慣病予防対策事業やアスベスト疾患を含むがん対策事業への財政支援の拡充、③建設国保組合の育成・強化です。

梶野国保課長は、組合員から届いた3枚のハガキを読みあげ、平成31年度都費補助は現行の水準を維持、生活習慣病予防対策への財政支援は公営国保と同等の補助を財政当局へ要求していくと回答。また、がん対策事業については、今年度から各自自治体が行なうがん検診環境の整備への支援事業を開始したことを紹介し、国保組合への財政支援を国保課の枠内で事業化するこ

なくそうじん肺 宣伝し労働局・都と交渉



東京労働局前でチラシを配る仲間

【本部・佐藤哲也記】第29回なくせじん肺全国キャラバン東京行動が10月3日に取り組まれ、総勢100人（東京土建から86人）を超える参加がありました。9時から東京労働局前宣伝、その後、東京労働局交渉、新宿駅西口宣伝、東京都交渉を行ないました。労働局交渉では、ほとんどの要請項目で「本省に報告する」の回答に留まりました。東京都都市整備局交渉では、アスベスト使用建物の解

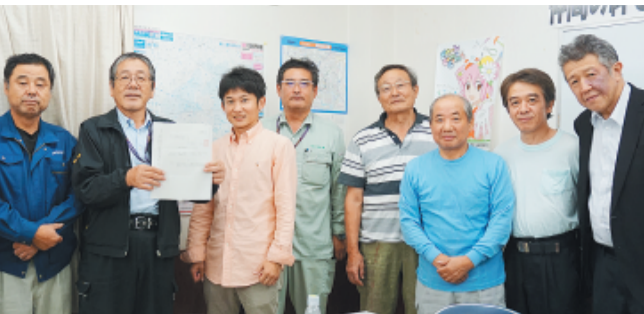
【本部・改修・補修工事における事前調査や除去費用の補助制度について、唐澤専従常任中執が質問しましたが、「都として補助制度は考えておらず、国の補助制度を周知している。また、補助制度を独自で作っている区市町村についてはHPにも掲載している」との回答。交渉団は、東京都の姿勢に釘を刺したうえで、自治体で構成されている「連絡会」で、東京都でイニシアチフを発揮し、都民感情に込めてほしいと要請しました。

正式配備に怒り オスプレイ反対掲げ集会

横田基地にCV22オスプレイ5機が正式配備されたばかりの10月6日、福生市民会館で「横田基地もいらぬ！市民交流集会」が850人（東京土建は121人）の参加で行なわれました。

午前の部では、紙芝居「わたくしが子どものとき、日本は戦争をしていた」の上演、記録映画「OKINAWA1965」の上映がありました。午後の部では、島田清作代表委員が、「この集をきいて、デモ行進しました。」

横田基地にCV22オスプレイ5機が正式配備されたばかりの10月6日、福生市民会館で「横田基地もいらぬ！市民交流集会」が850人（東京土建は121人）の参加で行なわれました。午前の部では、紙芝居「わたくしが子どものとき、日本は戦争をしていた」の上演、記録映画「OKINAWA1965」の上映がありました。午後の部では、島田清作代表委員が、「この集をきいて、デモ行進しました。」



意見書を持つ唐鎌委員長と支部の仲間

【西東京・書記・石島淳記】西東京支部と首都圏建設産業ユニオン多摩北支部がそれぞれ提出していた、「東京都に2020東京オリンピック競技大会の開会式に競技施設等の工事従事者の入場行進を求める陳情」は、9月7日の市議会文教厚生委員会において全会一致で採択されたのを受け、9月19日日本会議にて全会一致で採択されました。支部では、6月5日の第2回定例会開催中に仲間から集めた405筆の署名を、建設ユニオン多摩北支部と一緒に提出し、市内建設労働組合の団結する姿を強調しまし

五輪行進が採択 議会各会派へ働きかけ

西東京

【本部・末浪明子記】10月10日、67人の参加で都福祉保健局交渉へ臨み、要請書と全都議126人中112人分の都議賛同署名を東京都へ手渡した後、木村都連社保対部長が要請趣旨を説明しました。要請趣旨は、①都費補助金の現行水準確保、②生活習慣病予防対策事業やアスベスト疾患を含むがん対策事業への財政支援の拡充、③建設国保組合の育成・強化です。



不払いの注意喚起する
名刺型チラシ

【本部・佐藤正雄記】過酷な現場実態を改善しようと、首都圏の各組合で取り組んできた「丸の内3・2計画」の現場では、10月15日の竣工引き渡しに向けて超突貫の作業が行なわれていました。従事者から「1週間家に帰って

現場では、10月15日の竣工引き渡しに向けて超突貫の作業が行なわれていました。従事者から「1週間家に帰って

内場 不払い出さない 丸の内 名刺型チラシで注意喚起

【本部・改修・補修工事における事前調査や除去費用の補助制度について、唐澤専従常任中執が質問しましたが、「都として補助制度は考えておらず、国の補助制度を周知している。また、補助制度を独自で作っている区市町村についてはHPにも掲載している」との回答。交渉団は、東京都の姿勢に釘を刺したうえで、自治体で構成されている「連絡会」で、東京都でイニシアチフを発揮し、都民感情に込めてほしいと要請しました。

9月28日には、